

特定非営利活動法人  
エイズ孤児支援NGO・PLAS

事業・決算報告書

2013年度

2013年3月11日－2013年9月30日



## Our Mission

HIV/エイズによって影響を受ける子どもたちが笑顔でいられる社会を実現する。

## Our Value

私たちが大切にすること

1. 地域で子ども達が育つことを大切にします
2. 地域と共に活動し、住民の自立を優先します
3. 前向きにチャレンジし、成長しつづけます
4. 人とのつながりを大切にし、お互いを尊重します

## Contents

1. Our Mission, Our Value
2. 海外事業 ケニア
3. 海外事業 ウガンダ
4. 国内事業 世界エイズ孤児デーキャンペーン
5. 国内事業 世界エイズデーキャンペーン、助成金実績、主なメディア掲載
6. 会計

# KENYA

ニャンザ州ウゲニャ県

## 地域概要

この地域はケニア共和国で最もHIV感染率が高いニャンザ州に位置しており、HIV感染率がケニア共和国全体で約8.3%であるのに比べ、このウゲニャ県のHIV感染率は2002年の時点で28%です。住民の多くが農業に従事しており、住民の約6割が絶対的貧困層と言われています。



## HIV / AIDS

## エイズ啓発・母子感染予防事業

この地域では、妊産婦やその家族が病院へ行くことを拒んだり、HIV検査を受けること自体が差別の対象となったりするなど、社会的な側面から、母子感染予防プログラムを受けることができない女性が多く存在します。

また、およそ2人に1人の妊産婦が、病院に来て初めて母子感染について知るという現状があり、母子感染が起こること、また予防するものであることを知らない人が多いことも指摘されています。妊産婦やその家族が、母子感染予防について事前に知り、病院へ行くことの重要性を感じる必要があります。



啓発活動を実施する前には、啓発リーダーたちが中心となって入念に準備を実施します。

**2012年9月～2013年4月の半年で、4,714名(累計21,500名)の地域住民に母子感染予防教育を提供**

3年目を迎えた母子感染予防事業では、累計69名の啓発リーダーが育成されました。リーダーたちは母子感染予防についての研修を受け、グループに分かれて月4回程度、エイズ予防教育を各地域に届けています。2012年9月からの半年で実施した啓発活動は計145回、4,717名の地域住民が参加しました。地域住民からHIVについて相談を受けたり、住民組織から啓発活動の依頼件数も増えています。また、2012年9月以降は計3回のフォローアップ研修を実施。各リーダーによる啓発の実演や参加者・専門家からのフィードバックを受けるなど、活発な研修となりました。

## 啓発リーダーが活動にかける想い

啓発リーダーは、全員ボランティア。活動を続けるモチベーションについて、リーダーの一人Siemonさんは、「HIV/エイズに対する地域のスティグマや偏見を和らげることができたり、お母さんたちが医療機関で安全な出産をするようになったりする変化がやりがいです。」と答えてくれました。啓発リーダーの活動を受けた住民グループが新しいグループを紹介して啓発活動の輪が広がったり、啓発を受けて病院にリッチした住民の数も増えたりと、定期的なフォローアップ研修が成果につながっています。



# UGANDA

ジンジャ県

## 地域概要

ウガンダ共和国ジンジャ県。豊富な水資源に恵まれた肥沃な土地を利用した農業で生計を立てている家庭が多いのが特徴です。経済的理由などから学校に通うことができないエイズ孤児が多くおり、特に中退が問題となっています。ジンジャ県の初等教育の中退率は77.8%にのぼります。



## Agriculture

## 養鶏事業の開始

約13年前、エイズ孤児を支援しようと、地域のHIV陽性者たちが地域団体「カunga」を立ち上げ、養鶏を開始しました。その収益により、これまで64名のエイズ孤児を学校に通わせることができています。けれども支援を待つエイズ孤児は増えるばかり。団体所有の鶏舎がなく、団体事務所の一角の小さなスペースで鶏を飼育していたり、高い賃料を払って鶏舎を借りざるをえなかったり。懸命に活動しても、エイズ孤児に届ける支援が滞ってしまうこともありました。プラスは現地パートナー団体と共にこの養鶏プロジェクトを立て直し、拡大することにより、共にエイズ孤児支援を行っています。



完成した鶏舎の前に立つカunga代表のジョイさん。新しい鶏舎の建設によって、新たに地域のエイズ孤児50名が就学できる見通しとなっています。

## 第一ステップとなる 新しい鶏舎が完成！

この養鶏事業を拡大していくために、第一ステップとなる鶏舎の建設を開始。2013年4月には、日本で実施した寄付キャンペーンで集まったご支援163万2,863円によって新しい鶏舎が完成しました。

地元で雇用した建設業者に任せることなく、毎日カungaのメンバーが交代で現場に向き、実際の建築プランと齟齬がないか、資材の不正がないかモニタリングしました。

## 持続可能な運営をめざして

鶏舎が完成した後、養鶏研修を実施しました。これまでも養鶏を行ってきたカungaですが、疾病対策や、病気の見分け方、適切な対処の仕方などを専門家から改めて学び、しっかりと収益につながる管理方法を運営メンバー全員が身につけます。研修後の2013年5月には、新たに250羽のヒナを購入し、現在も順調に育っています。今後はブロイラーにも挑戦するなど、メンバーたちが具体的なビジョンを持って運営を行っています。



養鶏研修での一コマ。講義だけでなく、グループワークも取り入れました。子ども連れで参加する運営メンバーも。

# 世界エイズ孤児デーキャンペーン2013

5月7日の世界エイズ孤児デーに合わせて  
エイズ孤児を知ってもらい、支援につなげるための  
啓発キャンペーン

## キャンペーン概要

本年が7年目となった世界エイズ孤児デー  
キャンペーンは、「こどもたちのえがおに、未来を。」  
がキャッチコピー。毎年好評のチャリティパーティー  
の開催、フォトジャーナリスト安田菜津紀さんの写  
真展、チャリティオークション、Facebook上でのチャ  
リティフォト投稿キャンペーンなど、さまざまな企画  
を行いました。



## Party

### 世界エイズ孤児デーチャリティパーティー を東京・三田で開催

5月12日に、株式会社アイデアインターナショナル  
本社にてチャリティパーティーを開催しました。  
支援者や協力企業の方、ボランティアなど総勢  
81名が集まりました。  
代表・門田、事務局長・小島、理事・一宮でプラス  
の7年半を振り返るトークセッションから開始。  
アフリカでプラスのワークキャンプに参加した  
ボランティアによるミニセッションは立ち見が出る  
盛況ぶりでした。また、ザ・ボディショップ、アイデア  
インターナショナル、LUSHご提供の素敵な商品が  
当たるクイズラリーでは10名が当選し、パーティー  
の感想やプラスへのメッセージをいただきました。



## Photo Exhibition



### 安田菜津紀さん写真展

#### 「Ekilooto of Uganda～HIVと共に生まれる」

4月30日～5月17日まで、世界銀行情報センターにて  
写真展を開催。2010年、プラスが活動するウガンダの  
事業地を取材で訪れた安田さん。写真からは、HIV/  
エイズによって親を失い、地域で差別に遭うなど子ど  
もたちの過酷な現状と共に、家族を愛し、将来への夢  
を失わない子どもたちの姿が映し出されていました。

## Web



### Facebookチャリティ企画「アフリカから届いた笑 顔フォト！あなたの投票でフェイスブックカバ ー画像を選ぼう！」

4月22日より5月12日の期間、プラスのFacebookページ  
上で開催。アフリカから届いた5つの写真からお気に入りの  
写真をユーザーが投票することで、1投票につき30円  
が寄付される仕組みです。20日間で参加したユーザー  
は733名にのぼりました。(ご協力・ご協賛 アライドアー  
キテック株式会社、サンスター株式会社)

# 国内 事業

## 主催イベント・その他の活動実績

定期的に実施している主催イベントは2種類。  
月例のPLASRoom、3～4ヶ月に1回開催している  
PLASMeetupを合わせ2013年度は計6回実施しました。  
その他にも、講演活動の強化やチャリティウェブ  
ショップの改訂など、日本から気軽にエイズ孤児支援  
に参加できる取り組みを行いました。



### Event



### 定期主催イベント PLASRoom/PLASMeetup

定員30-60名程度で実施する主催イベント。「ケニア駐  
在員の奮闘記」、「エイズ孤児とHIV/エイズの現状」、  
「NPOのソーシャルメディア戦略」、「社会貢献分野での  
キャリアアップ」といった様々な切り口から、プラスの活  
動をお伝えしました。2013年度(2013年3月～2013年  
9月)は計6回実施、合計172名がご参加下さりました。

### WebShop

### ウェブショップ

アフリカのおしゃれなアクセサ  
リーなどを販売するチャリティ  
ウェブショップがリニューアル。  
協力企業とのコラボ商品もライ  
ンナップ、売り上げの一部がプ  
ラスの活動に充てられます。

### Lecture

### 講演活動

2013年度から講演特設ページ  
を開設。企業や自治体などで7  
回の講演を実施しました。(実績  
例 富士ゼロックス株式会社、武  
蔵野市国際交流協会、NPOサ  
ポートセンター)

## 助成金・ 企業寄付 実績

- ・独立行政法人国際協力機構草の根無償資金協力事業
- ・グンゼ株式会社様「グンゼラブアース倶楽部」
- ・キューピー株式会社マッチングギフト制度「QPeace」
- ・スタンダードチャータード銀行 世界エイズデーキャンペーン協賛
- ・ファンケル株式会社「もっと何かできるはず基金」
- ・セールスフォースドットコム株式会社
- 他

## 主なメディ ア掲載

- 書籍/雑誌
- ・ソトコト2013年5月号「嫁入りレシピ」に事務局長小島のインタビューが掲載されました。
- ネットメディア
- ・Yahoo!JAPANニュース、オルタナS等にてプラスの世界エイズ孤児デーキャンペーンFacebookチャリティ企画が紹介されました。

特定非営利活動法人  
エイズ孤児支援NGO・PLAS  
〒141-0021 東京都品川区上大崎3-14-58クリエイト目黒2A  
TEL/FAX 050-3627-0271 info@plas-aids.org  
www.plas-aids.org/